

平成21年度 事務事業評価シート（平成20年度実績分）

事務事業名		上水道安全対策（送水幹線二重化）		部課コード	2405	予算事業科目		事		区分	継続
所管部署	担当部局	水道局		部局長名（2次評価者）	木藤善治		個別事務	0	-		
	担当部署	配水課		所属長名（1次評価者）	澤田和良						
	電話番号	088-821-3262		E-mail	kc-240500@city.kochi.lg.jp						

1 事業の位置付け

予算科目（平成20年度）		高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け											
会計	水道事業会計	目標	環境と共生する安全で快適な都市							政策基本方針	災害に強いまちづくりを進めるため、自然の環境作用にも配慮しながら、都市防災構造化を推進するとともに、市民と行政が一体となった防災対策、応急活動を行う自主防災組織の育成・強化、災害に強い人材の育成などに取り組みます。		
款	1 資本的支出	政策	災害に強いまちづくり										
項	2 増補改良工事費	施策	災害に強い基盤整備										
目	1 管渠増補改良費	区分	送水幹線二重化の検証										

2 事業の根拠

法律・政令・省令		法定受託事務
県条例・規則・要綱等		
市条例・規則・要綱等		
その他（計画、覚書等）	高知市水道事業基本計画2007（基本施策：3-2バックアップ施設の整備）	

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	合併前高知市の約2/3相当の市民。（生活用水を市内に送る、上水道の送水本管の二重化）		
意図	どのような状態にしていけるのか	新たに耐震性の送水本管（φ1100mm）を布設し、二重化により、災害時におけるライフラインを確保する。		
手段	事業実施体制等	専任の担当者を指名配置。	事業開始年度	平成18年度
			事業終了年度	平成29年度
活動内容	どのような事業活動を行うのか	針木浄水場から九反田配水所間に、既設送水管とは別ルートで耐震性の送水幹線を布設する。		
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方	
	A	工程計画に対する完了事業の割合	管路を単線で布設する事業のため、完了延長で割合を決定。	
	B			
	C			

4 事業の実績等

			18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(計画)	備考欄	
成果指標	A	工程計画に対する完了事業の割合	目標 100%	100%	100%	100%		
			実績 100%	100%	100%			
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)	8,925	5,555	388,626	104,503	市から1/8繰入金	
		財源内訳	国費 (千円)					
			県費 (千円)					
			市債 (千円)		5,500	338,800		
			その他 (千円)			48,400		
			一般財源 (千円)	8,925	55	1,426		
	翌年度への繰越額 (千円)							
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)	4,125	4,125	5,775			
		正規職員 (千円)	4,125	4,125	5,775			
			その他 (千円)					
		人役数 (人)	0.55	0.55	0.77			
			正規職員 (人)	0.55	0.55	0.77		
		その他 (人)						
	総コスト = ① + ② (千円)		13,050	9,680	394,401			
市民1人当たりコスト (円)		40	28	1,158		総コスト/年度末人口		
年度末住民基本台帳人数 (人)		327,310	341,544	340,695				

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

--

6 1次評価（所属長評価）

評価日（平成 21 年 9 月 1 日）

評価項目		評価基準		1次	平均 点数	評価内容の説明
事業実施の必要性	① [施策体系等での位置付け] 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく	A	5.0	<p>本事業は、高知市水道事業基本計画2007の基本目標に示されている災害対策の推進中の重点施策に位置づけられている。</p> <p>また、市民の関心の高い災害対策の一環として、近い将来50%以上の確率で起きるといわれている南海地震等災害時にライフラインの機能を確保するために実施するものである。</p>	
		B (3) 一部結びつく				
	C (1) あまり結びつかない					
	D (0) 結びつかない					
② [市民ニーズの傾向] 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している	A				
	B (3) 横ばいである					
	C (1) 少ない、減少している					
	D (0) ほとんどない					
事業内容の有効性	③ [成果の達成状況] 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している	A	5.0	<p>平成20年7月から施工している「送水幹線二重化（1工区）築造工事」は順調に進捗し、本年10月の完成検査を残すのみとなっている。</p>	
		B (3) 概ね達成している				
		C (1) あまり順調ではない				
		D (0) 十分な成果を望めない				
	④ [事業の手法・活動内容] 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である	A			
		B (3) 概ね妥当である				
		C (1) 検討の余地がある				
		D (0) 見直しが必要である				
事業実施の効率性	⑤ [アウトソーシングの可能性] 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない	A	5.0	<p>全体事業に係る基本設計や今後予定しているシールド工事区間については、コンサルタントへの設計委託を考えているが、工事発注や工事監督等については水道局技術職員で行う予定である。</p>	
		B (3) 行政主体が望ましい				
		C (1) 検討の余地はある				
		D (0) 十分可能である				
	⑥ [事業統合・連携・コスト削減] 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない	A			
		B (3) 概ね効率的にできている				
		C (1) 検討の余地がある				
		D (0) 十分可能である				
事業実施の公平性	⑦ [受益者の偏り] 事業の受益者が特定の個人(団体)等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い	A	5.0	<p>本事業を行うことにより、市内の約2/3の市民に送水している送水管が二重化され、災害時に対するライフライン確保の最重要課題がクリアされる。</p>	
		B (3) 概ね保たれている				
		C (1) 偏っている				
		D (0) 公平性を欠いている				
	⑧ [受益者負担の適正化] 事業実施の財源として、受益者負担割合（一般財源負担割合）は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である	A			
		B (3) 概ね適正な負担割合である				
		C (1) 検討の余地がある				
		D (0) 検討すべきである				
総合点 20.0	総合評価	○ A 事業継続（総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合）				
		B 経費削減に努め事業継続（総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合）				
		C 事業縮小・再構築の検討（総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合）				
		D 事業廃止・凍結の検討（総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合）				

7 2次評価（部局長評価）

評価日（平成 21 年 9 月 11 日）

総合評価	評価理由・今後の方向性等
○ A 事業継続	1次評価のとおり
B 経費削減に努め事業継続	
1	
D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項

<p>(12月市議会定例会建設常任委員会 平成21年12月17日)</p> <p>・送水幹線二重化については、一般会計からの受けるべき負担分をもらっていないという問題があるので、評価Aはおかしいのではないかと。</p>
